
償い

籠山 りんご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
償い

【Nコード】
N4337B

【作者名】
籠山 りんご

【あらすじ】
ある国のあるお姫様とある国のあるただの男と二人は共に罪を犯して二人は共に罪を償う二人はいつでも から。

「私は、幸せです。」

男は女の長く伸びた黒髪をとかしながら言った。

女は表情を変えず応える。

「何故？」

女は振り返りもしない。

しかし男は微笑んで

「貴女のお側に居られる、そして、こうして髪をとかしている。それだけで、幸せです。」

女は男の髪をとかしていた手を振り払うとゆっくりと立ち上がって

「私はお前に罪を償わせているだけだ。勘違いするな。」

表情は相変わらずだった。男はまたも微笑み

「承知しております。私は貴女に償いをしています。承知しております。」

「ならいいの。」

女はそう言つと、ベッドの上に腰を下ろし

「続けて。」

相変わらずの表情で。

「承知しました。」

男は長い長い女の黒髪に櫛を通す。

女は小さく溜め息を吐き

「お前は私に惚れた。」

いきなり呟いた。

「あ、はい。」

男は驚き目を丸くしながらも応える。

「それは罪だった。だから、私達は二人で逃げ出した。」

「はい…。貴女はお姫様さまでした。私はそんな貴女に恋をしてしま…。」

男が言葉に詰まると女は続けた

「私もお前に惚れた。だから逃げてきた。それは罪だ。」

男は女の台詞に驚き手を止めた

「何をしている、早くとかせ、罪を、償え。」

男はいつものように微笑み

「かしこまりました。」

言った。

二人はしばらく黙っていたがある時女は口を開いた。

「そして私もまた、罪を犯した罪人だ。罪は償わなければならない。」

「

女は頬をほんの少しだけ赤らめて

「だから…私は…お前を愛して罪を償う。だから……お前も……」

…」

女はブツブツと何かを言おうとしているが聞こえないので男が代わりに言った。

「はい、私は貴女を愛します。罪を償う為に。」

男と女は罪を犯した。

そして罪を償い合った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4337b/>

償い

2010年10月17日20時14分発行